

平成 26 年度日本薬剤師会学校薬剤師部会主催 くすり教育研修会参加報告

千葉県学校薬剤師会
常任委員 大野定行

日本薬剤師会主催の くすり教育研修会が平成 27 年 3 月 12 日(木) にスクワール麹町(東京・千代田区)にて開催されました。「学校におけるくすり教育の現状と課題」をテーマに

(1) 学習指導要領の周知・徹底に向けた支援体制整備

- 1) 学習指導要領に基づいた中学校・高等学校の保健体育科における医薬品に関する教育並びに特別活動等を活用した保健指導の実施と充実に向けて情報提供
- 2) 保健体育教諭, 保健主事, 養護教諭等の学校関係者と学校薬剤師等の医薬品の専門家が医薬品の教育に関する相互理解を深め, 協調・協力し医薬品教育の実施と充実に向けた連携の在り方についての協議

(2) 学校保健を巡る最近の話題への対応等

- 1) 教育現場の現状と事例等から学び, 学校薬剤師の学校保健活動への寄与の在り方についての協議
- 2) 薬物乱用防止, 薬害等の現代的な課題に関する教育への対応について, 専門家等から学び, 学校保健活動の推進についての協議

について全国から多くの保健体育教諭, 保健主事, 養護教諭, 学校薬剤師等が参加しました。

まず, 基調講演として、「医薬品に関する教育の必要性～期待される学校薬剤師の役割～」

文部科学省スポーツ・青少年局学校健康教育課健康教育調査官 北垣 邦彦氏が講演されました。学校薬剤師がその専門的知見を生かし医薬品教育に係ることは児童生徒に新鮮で有益であり, 今後の活躍を期待していると述べられました。

その後 5 名の先生が以下の内容による実践例が報告されました。

① 中学校におけるくすり教育

～添付文書を副教材として～

東京薬科大学薬学部 教授 加藤哲太氏

② 小学生の発達段階別薬育が中学生の医薬品理解と適正使用に与える影響

慶応義塾大学薬学部 教授 福島紀子氏

③ 8 年の歩み～大阪市内の小学生に対する医薬品適正使用の啓発～

大阪市学校薬剤師会 西川節子氏

④ 栗東市立中学校におけるくすり教育の取り組み

滋賀県薬剤師会学校薬剤師部会

健康教育ワーキンググループ 岡川東和子氏

⑤ 学校薬剤師と連携した医薬品教育の現状と課題について～保健体育教諭の取り組み～

山口県柳井市立柳井中学校教諭 宮内秀一郎氏

その中において慶応義塾大学薬学部教授福島 紀子氏の話の中で, 学生たちによる薬の教育, 特に小学生の糖尿病教室における取組について学生ならではの発想による講義(紙芝居, 劇)により, 子供たちがインスリン注射の必要性を理解し, 自ら行えるようになったこと。また, 小学校において学年ごとにその発達段階に合わせた薬教育をおこなっており, この教育が中学生の薬の総合的な適正使用や薬に対する理解を高める要因になっているとの報告がありました。

また, 山口県柳井市立柳井中学校教諭宮内 秀一郎氏の教師から見た薬教育の在り方を御自身の授業経験から話され, 生徒の薬に関する理解のアンケートを取り, 学校薬剤師と協力し作り上げた実践例を報告されました。養護教諭とは日頃接する機会が多い学校薬剤師ですが, 保健体育の先生方とはあまり接する機会がないため, どのようにアプローチしていけばスムーズに進めることができるかなど, 体験を通じて話をされたのでの興味深く参考になりました。ほかの先生方も特色を持ったアプローチの

千葉県学校薬剤師会だより

仕方で薬教育を実践されており、今後の参考となるとても興味深い内容でした。

学校で医薬品に関する教育が必要な事として、教育行政の視点においては生涯を通じて自らの健康を適切に管理し、改善していく資質や能力を育てる一つとして医薬品教育があり、また医療行政の視点では社会情勢の変化として医療費の増大、少子

高齢化の問題にセルフケアのひとつとしてセルフメディケーションの推進が挙げられております。我々学校薬剤師がこれらに関しその責務を負うことは職務からも必然であり、さらなる貢献をすることを期待されておりますので、これからの子供たちのために頑張っていきましょう。